

法人名 労働者協同組合つどい
所在地 飯能市下川崎東原 34

事業報告書

自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日

I 事業活動の概況に関する事項

生活クラブ連合会からの委託を受け、飯能デリバリーセンター内において、申込情報セット業務、OCR 読取修正および口座情報入力業務、電話注文センターおよび e くらぶ事務局業務、構内外清掃業務、保育業務を実施した。また、生活クラブたまごからの委託により、飯能デリバリーセンター内に設置された卵自動販売機の維持管理業務および飯能 GP センター業務を行った。自主事業としては、地域の人々が住み慣れた家や地域で自分らしく暮らし続けられるよう支援する「たすけあい事業」を実施した。

各業務・事業を組合員がより身近に感じられるよう、ワーカーズ・コレクティブとして運営し、組合員が意見を出し合える場を設けてきた。運営会議を決定機関とし、課題の整理や解決に向けた協議を行ってきた。

2023 年度から 2025 年度までの第 6 次中期計画の 3 年間の事業総括を行い、新たに 2026 年度から 2028 年度を対象とする第 7 次中期計画を策定した。

1. 事業の経過およびその成果

(1) 申込情報セット業務 …ワーカーズ・コレクティブ帳合

生活クラブ連合会より受託した PMSS 申込情報セット業務およびデポーカタログ丁合業務を実施した。多様な働き方を尊重しつつ人員配置に努めたが、人員確保には苦慮した。

作業時間の確保を目的として、金曜日に続き水曜日についても始業時間を 30 分早める拡大対応を行った。また新規加入者の増加に伴い、運営会議において業務内容および運営に関する説明を行い、共通理解を得るために時間を要した一年であった。

1) PMSS 申込情報セット業務

【基本体制】

2 レーン体制で実施し以下の 16 名を基本配置とした。チラシ数に応じて増減員を行った。

機長：2 名、オペレーター：2 名、フィーダー：7 名、デリバリー：5 名

また、以下の担当を配置した。

フリー管理（連合会窓口・業務管理者）：1 名

資材（チラシ搬入）：1 名、後方支援（チラシ準備・出荷）：1 名

【専任機長業務】

- 昨年に引き続き、PMSS 機の経年劣化により、前例のない機械トラブルや軽微なメンテナンス対応が増加した。

- 部品破損による停止や原因不明のトラブル発生時には連合会へ報告し、シトマ社と連携して対応した。

【機長・オペレーター業務】

- 日々の生産中の機械調整およびチラシ入れ替えは機長が担当した。
- オペレーターは丁合データの読み込み等を担当し、両レーンの進捗を踏まえた丁合単協の入れ替えやデータ運用を行い、作業時間の短縮に努めた。
- 木曜日は片レーンでデポー丁合を行いながら機械調整を実施した。
- 専任機長の業務の一部を機長が分担し、負担軽減を図った。
- 新人オペレーター2名の育成を行った。

【フィーダー・デリバリー業務】

- 運営会議や朝礼において、チラシの反りの見分け方や基本作業の確認を定期的の実施し、技量向上を図った。

【資材担当】

- 連合会と連携し、資材の補充・調達を行った。
- カゴ車の扱いについて、新人向けに資料を用いた臨時説明を実施し、事故防止に努めた。

【入荷・後方支援】

- デポー要員確保も兼ね、木曜日の検品者を3名体制としたことで、終了時間の短縮につながった。

【OCR および帳票の破損状況】

- フィーダーやオペレーターが不良チラシの除去を徹底したことで、破損枚数が減少した。

【業務研修】

- 個々のスキルに応じた「新人育成研修管理表」を作成し、育成を進めた。
- フィーダーのエラーやジャム防止のため、チラシの捌き方研修を実施した。
- 新規OCR作業について手順を見直し、運営会議で資料を配布した。

【デポーカタログ丁合業務】

- 東京・神奈川・千葉・埼玉のデポーカタログ丁合を毎週木曜日に実施し、金曜日に出荷した。
- 他業務の合間に丁合を行った際に事故が発生したため、専任のデポー要員を確保し、再発防止に努めた。

【夏・冬ギフトカタログ丁合作業】

- 専任機長によるバーコードリーダー設置により、ノーリードエラーおよび申込書破損が減少した。
- 新規申込書および履歴有新規申込書のセンター送付作業を実施した。
- 事故防止のため、送付作業は3名体制とし、作業終了時間の短縮につながった。

2) 業務事故

PMSS 業務において業務事故7件、物損事故1件が発生した

マニュアル不遵守による事故が多かったため、事故原因の究明を目的に個別ヒアリングを実施した。その結果をもとに運営会議で対策を協議し、朝礼等で共有することで再発防

止に努めた。

3) 課題

- マニュアルを遵守した作業の定着
- 個人の作業技術の向上
- 機長、後方業務、資材、総務職の人材育成
- 業務安定を図るための人員確保
- フォローアップ研修の充実
- 安全面に関する意識の向上

4) 受託料及び人件費の実績

		予算	決算	対予算
受託料	PMSS	57,552,624 円 39,098.25 時間 1,472.0 円/時	61,155,344 円 41,545.75 時間 1,472.0 円/時	106.3% 106.3% 100.0%
	デポー	2,100,000 円	2,042,198 円	97.2%
	専任機長	480,000 円	480,000 円	100.0%
	デポー ギフト	44,160 円 30.00 時間 1,472.0 円/時	33,120 円 22.50 時間 1,472.0 円/時	75.0% 75.0% 100.0%
	計	60,176,784 円	63,710,662 円	105.9%
	人件費(時給計算分)	47,520,490 円	50,500,633 円	106.3%
労働時間		41,482.25 時間	44,118.75 時間	106.4%
平均単価		1,145.6 円	1,144.7 円	99.9%
一時金		0 円	1,122,801 円	-
業務手当		2,212,683 円	2,297,467 円	103.8%
デポギフト人件費		27,480 円	19,453 円	70.8%
労働時間		24.00 時間	17.00 時間	70.8%
平均単価		1,145.0 円	1,144.3 円	99.9%
総人件費		49,760,653 円	53,940,354 円	108.4%

(2) OCR 読取修正業務および口座情報入力業務 …ワーカーズ・コレクティブ受注

生活クラブ連合会より受託し、飯能デリバリーセンター内において OCR 読取修正業務および口座情報入力業務を実施した。間接業務が一部の人に偏らないよう係を配置し、全員が運営に携わる体制を整えた。運営会議ではリモート参加を継続し、欠席者は会議報告書への意見・質問をレポートで提出し共有した。

梅雨時期は修正件数が増加し作業時間を要したため、OCR 用紙の厚紙化に加え、早出を増やすことで対応した。

佐野センターの修正日は火曜・金曜であったが、7 月（28 週）から木曜が増設され、修正日が増加した。

口座入力作業では、マニュアルの読み合わせや業務研修を行い、ミスのない入力作業を実施できた。

1) OCR 読取修正業務

1 日 13 名体制、8:30 始業を基本とし、エラー率や読取機の状態、降雨による OCR 用紙不良などの状況に応じて早出を実施した。その結果、締切 11:00 前に作業を完了することができた。

2 週分を受注した 12 月 16・17・18 日の 3 日間は、18 名体制に増員し、11:00 の締切に間に合うよう対応した。

2) 口座情報入力業務

読取修正業務終了後、終礼までの時間を口座入力業務に充てた。

口座チェック担当者 1 名、バッチ分け担当者、棚チェック担当者を適宜配置した。

月 1 回の金融機関発送作業および単協発送作業には各 2 名を配置し、単協発送前のチェックは当日作業員全員で実施した。

口座締切前には、口座入力担当を重点的に配置した。

3) 業務事故

OCR 読取修正業務の事故件数は前年度 14 件に対し 7 件となった。

事故・ヒヤリハット事例については原因を究明し個別指導を行うとともに、朝礼・終礼・ホワイトボードで共有し、業務会議での議論内容を運営会議へ報告した。

6 桁番号や 2 桁注文の修正事故が続いたため、グループ討議を行い、原因分析と再発防止策の検討を行った。

口座入力業務における事故は発生しなかった。

4) 業務研修

- ・ 業務基準に沿った業務研修の実施
- ・ 事故再発防止策としてマニュアルの改訂および読み合わせを実施
- ・ 安全作業のためのカゴ車取り扱い研修を実施
- ・ 対象者に対する基礎研修（OCR 研修）の実施

5) 課題

- ・ 人員の補充
- ・ リーダー層を担う人材の育成
- ・ 業務事故防止策のさらなる強化

6) 受託費及び人件費の実績

	予算	決算	対予算
受託料	19,208,259 円	18,401,639 円	95.8%
受託単価	OCR3.25 円/枚・口座 100 円/枚	OCR3.25 円/枚・口座 100 円/枚	
	1,509.0 円/時	1,509.0 円/時	-
OCR 読取数	5,384,829 枚	5,154,218 枚	95.7%
口座入力数	11,100 枚	10,257 枚	92.4%

	予算	決算	対予算
受託時間	396.0 時間	414.0 時間	104.5%
人件費(時給計算分)	14,243,674 円	13,698,347 円	96.2%
労働時間	12,525.00 時間	12,045.50 時間	96.2%
平均単価	1,137.2 円	1,137.2 円	100.0%
一時金	0 円	295,098 円	-
業務手当	627,700 円	598,800 円	95.4%
総人件費	14,871,374 円	14,592,245 円	98.1%

(3) 電話注文センター業務 …ワーカーズ・コレクティブ・ベル

生活クラブ連合会より受託し、電話注文センター業務および e くらぶ事務局業務を実施した。朝のオペレーター人員 18 名体制、夜 20 時までの受注体制を継続したが、人員不足により必要人員を確保できない状況が続いた。

1) 電話注文センター業務

【人員体制】

必要人員を確保するため各自で調整を行ったが、必要人数に満たない日が多かった。

人員募集に向けて、ハローワーク・インターネット求人・チラシ配布を実施した結果、脱退者 7 名に対し新規雇用 4 名となった。

インバウンド対応のオペレーター労働時間は対予算 99.2%であった。人員不足に加え、本人や家族の体調不良による急な欠勤が影響した。

【業務実績】

受信率平均は 93.6%で、目安の 95%には届かなかった。2024 年度と比較し、有効呼数・受信件数・受注件数はいずれも減少した。

12 月の 2 週受注締切日は、受注時間延長と増員体制の事前周知を行い対応した。

アウトバウンド依頼件数は前年度より約 6,700 件減少したが、依頼されたアウトバウンドは全日最低 1 回は架電した。

【スーパーバイザー業務】

- ・ 各時間帯の責任者として入電状況・受注状況を把握し、シフト調整・人員確保を実施
- ・ 電話注文センター管理業務および生活クラブ連合会との連絡業務
- ・ モニタリング・録音確認による事故防止対策とオペレーター個別指導
- ・ 新人研修・育成、業務研修の企画および講師担当

【オペレーター業務】

- ・ 電話注文インバウンド業務・アウトバウンド業務
- ・ 「基本マニュアル遵守」「事故のない好感をもたれる電話応対」を全体目標として共有し継続

2) e くらぶ事務局業務

インターネット「注文操作案内窓口業務」を実施した。

担当はメイン 1 名、サブ 1 名の計 2 名で、次世代育成のため午前・午後の交代制を継続した。業務内容は日々の引き継ぎや会議で共有した。

主な問合せ内容は以下の通り：

- ・新規登録
- ・ログイン不可
- ・注文完了メール未着

また、「生活クラブアプリ」「生活クラブ Gift」など配送センターが対応すべき問合せも増加している。

「問合せマスター」「業務マニュアル」「メール回答事例」は、現行システムや WEB 情報に合わせ随時改訂している。

3) 業務事故

事故総数は 12 件であった。

テンキーブラインドタッチは定着しているものの、画面確認不足、マニュアル不遵守、組合員の話の聞き逃しや思い込みによる事故が目立った。

事故・ヒヤリハットは随時全員で共有し、問題点改善のため全体業務研修を実施した。

スーパーバイザーのフォローにより、ヒヤリハットはあったものの事故を未然に防げた事例もあった。

4) 研修報告

【新人研修】

- ・ マナー研修
- ・ 生活クラブ共同購入ルール研修
- ・ システム研修
- ・ 内線電話を使用した実務研修
- ・ モニタリングによる実務コーチング
- ・ 基礎知識再確認・イレギュラー対応指導（新人フォロー研修）

【スキルアップ研修】

- ・ OP 注意事項・問合せ内容のデータ化と月例会議での確認
- ・ 録音システムを活用した改善指導

【全体業務研修】

- ・ 第 1 回：自身の録音を確認し、マニュアルに沿った対応ができているか、1 年前の録音と比較
- ・ 第 2 回：内線を利用した模擬受注（イレギュラー注文対応・システムエラー時の緊急受注対応）
- ・ 第 3 回：OP 注意の多い事例をワークショップ形式で再確認

【スーパーバイザー研修】

- ・ 緊急時（災害、OP 体調不良、システムエラー）の対応
- ・ クレーマー対応の事例共有

【e くらぶ研修】

- ・ 対応に苦慮した事例（電話対応編・メール対応編）の共有
- ・ 対応スキル向上を図った

5) 課題

- 基本シフトを埋めるための人員募集
- 事故分析に基づく研修の強化
- 主体的に関わり、考え、提案し、行動するための意識改革
- わからないことを気軽に質問できる雰囲気づくり

6) 受託費および人件費の実績

	予算	決算	対予算
受託料	52,459,636 円	52,129,939 円	99.4%
受託時間	34,764.50 時間	34,546.00 時間	99.4%
受託単価	1,509.0 円/時	1,509.0 円/時	100.0%
人件費（時給計算分）	41,133,514 円	40,855,576 円	99.3%
労働時間	36,084.00 時間	35,684.25 時間	98.9%
平均単価	1,139.9 円	1,144.9 円	100.4%
一時金	0 円	460,117 円	-
業務手当	1,533,950 円	1,441,131 円	93.9%
役職手当	588,000 円	560,000 円	95.2%
総人件費	43,253,464 円	43,316,824 円	100.1%

(4) 構内外清掃業務 …ワーカーズ・コレクティブぴかりん

生活クラブ連合会より受託し、飯能デリバリーセンターおよび飯能第2デリバリーセンターにおいて、構内外清掃業務、牛乳キャップ選別・コンテナ洗浄、構外除草を実施した。

朝礼では前日までの作業内容と申し送り事項を確認し、夕礼では当日の作業内容を確認して日報に記載した。また、昼礼を設けることで短時間勤務者との連携を強化した。

業務改善策やマニュアル改訂は運営会議で討議し決定し、短時間勤務者も運営に関われるよう間接業務を細分化して担当できる体制を整えた。

幅広い世代のメンバーが在籍していることから、互いに協力し合いながら運営することができた。

1) 構内清掃業務

飯能デリバリーセンターでは、午前3名体制を基本とし、食堂・トイレ・廊下・階段・更衣室の清掃を行った。

その他の箇所は集中清掃として、トイレの細部、会議室、2階ホール、食堂・トイレの排水口などを担当者を決めて実施した。

飯能第2デリバリーセンターでは、基本2名体制で取り組み、その他の箇所は集中清掃として行った。午後は午前の進捗状況や人員配置に応じて清掃箇所を柔軟に変更した。

年度末にはデリバリーセンター全体の集中清掃を行い、通常業務では対応できない箇所の清掃を実施した。

2) 構外清掃業務

牛乳キャップ選別では、安全に配慮しつつ異物を見逃さない丁寧な作業を心掛けた。

コンテナ洗浄は 2～3 名体制で行い、全員が無理なく従事できるよう洗浄日を曜日固定とし、稼働準備から清掃まで全員が担当できる人員配置とした。

除草作業は夏季の熱中症リスクに配慮し、作業時間を変更するなどの対策を講じた。

また、昨年度に続き試験的取り組みとして、組合員への消費材配布袋のラベル取り作業を受託し、他ワーカーズの協力を得て目標重量 500kg の処理を行った。

3) 業務事故

構外業務では安全第一を徹底して取り組んだが、除草作業時に誤ったバリカンの使用方法により負傷事故が発生した。

4) 業務研修

- 刈払い機作業シーズン前に、全員で動画視聴による研修を実施
- 2025 年度は運営会議開始前の 15 分を活用し、清掃箇所ごとの業務研修を計 4 回実施
- 研修により清掃技術が向上
- 清掃道具の取り換え頻度について再確認を行った

5) 課題

- 清掃技術のさらなる向上
- 代替要員を確保できる人員拡充
- 新人研修の充実
- マニュアル遵守の徹底

6) 託費及び人件費の実績

	予算	決算	対予算
受託料	9,532,680 円	9,786,130 円	102.6%
受託時間	6,441.00 時間	6,612.25 時間	102.6%
受託単価	1,480.0 円/時	1,480.0 円/時	100.0%
人件費（時給計算分）	7,818,274 円	7,959,845 円	101.8%
労働時間	6,865.00 時間	7,011.50 時間	102.1%
平均単価	1138.9 円	1135.3 円	99.7%
一時金	0 円	310,010 円	－
業務手当	237,400 円	233,450 円	98.3%
総人件費	8,055,674 円	8,503,305 円	105.6%

(5) 生活クラブ太陽すくすく保育園事業 …ワーカーズ・コレクティブにここ

生活クラブ連合会より受託し、生活クラブ太陽すくすく保育園の運営を担った。保護者との連携を大切に、子ども一人ひとりの個性を尊重しながら、年齢に応じた保育を実践した。また、スポット利用児についても年齢に応じた対応を行い、安心・安全な保育に努めた。

東京単協多摩南による飯能デリバリーセンター見学の際には、幼児 3 名を託児し、保護者

が安心して見学に参加できるよう支援した。今後の見学時の保育利用に備え、1日預かりに必要な項目（授乳・離乳食の状況、保育歴、常用薬、アレルギー等）に絞った児童票を新たに作成した。

1) 業務体制

開園時間（8:15～18:45）に合わせて保育業務を行った。

【スポット利用児への対応（長期休み・祝日等）】

- ・ 利用人数が多い日や幼児の午睡時には、第2飯能デリバリーセンターの第4・第5会議室を借用し、低年齢児に遠慮せず過ごせる環境を整えた
- ・ 人数が少ない日は通常保育園児と一緒に過ごし、異年齢での関わりを大切にしたい
- ・ 年下児は遊んでもらえる喜びを感じ、年上児はお世話する姿が見られるなど、互いに良い刺激となった

【保育参観（5/16）】

- ・ 通常利用園児へ呼びかけ、9家族（父親参加2名）が参加した。
- ・ 朝の会への参加や散歩コースの同行、園の畑の説明やいちご狩り体験を実施し、保護者から「とても良かった」との感想が寄せられた。

【みえぎょれん生産者交流会（11/21）】

- ・ 味噌汁の出汁について保護者に知ってもらうことを目的に企画したが、勤務状況や午後開催のため参加者はなかった。
- ・ 午前中の保育では、園児がかつお節をそのまま味わったり、味噌を入れる前の出汁を飲む体験を行った。

【年末の対応】

- ・ 12/28（日）も開園し、12/30（火）まで保育を実施した。
- ・ ㈱カワタキコーポレーション勤務の保護者から早出・延長保育の依頼が多く、柔軟に対応した。
- ・ 初めて年末を迎える低年齢児もいたが、健康管理に配慮し、子どもたちは元気に過ごすことができた。

【通常利用園児対象アンケート（11月）】

- ・ 記述式から選択式に変更して実施した。
- ・ 保育内容・給食・園内環境・連絡方法など、ほとんどの項目で「とても満足」「満足」が占めた。
- ・ 自由記述では、友だちや保育士との関わりを通しての成長を感じる声や、園の温かな雰囲気・丁寧な関わりへの感謝が多く寄せられた。

2) 業務研修

【飯能市主催 年齢別担当者会議への参加】

- ・ 0歳児・1歳児・2歳児部門の担当者会議に参加
- ・ 前期：植草学園・小川晶先生による年齢別発達の講話
- ・ 後期：年齢別に遊びの学び、1歳児は担当制、2歳児は気になる子・ペースの違う子

への対応、保護者対応について協議

- ・ 研修内容は園内で共有し、担当制については園に合った方法を今後検討することとした

【飯能市主催 保育士向け研修への参加】

- ・ テーマ：「配慮が必要な子との関わり」
- ・ 講師：光の家療育センター施設長・小児科専門医 鈴木郁子先生
- ・ 発達特性の理解や具体的な関わり方について学び、理解を深めた
- ・ 研修内容は園内で共有した

3) 課題

- ・ より多くの保育士が外部研修に参加できる体制づくり
- ・ ワーカーズの働き方についての理解促進

4) 受託費および人件費の実績

		予算	決算	対予算
受託料	保育	15,555,040 円	13,562,528 円	87.2%
		10,180.00 時間	8,876.00 時間	87.2%
		1,528.0 円/時	1,528.0 円/時	100.0%
	園長	240,000 円	240,000 円	100.0%
計		15,795,040 円	13,802,528 円	87.4%
自主事業収入		0 円	0 円	-
合計		15,795,040 円	13,802,528 円	87.4%
人件費(時給計算分)		12,030,430 円	10,529,113 円	87.6%
労働時間		10,529.50 時間	9,223.75 時間	87.6%
平均単価		1,142.5 円	1,141.5 円	99.9%
一時金		0 円	140,990 円	-
業務手当		1,060,700 円	1,036,920 円	97.8%
研修手当		12,800 円	8,000 円	62.5%
総人件費		13,103,930 円	11,715,023 円	89.4%

(6) 生活クラブたまご受託事業 …ワーカーズ・コレクティブたまご（一部本部）

㈱生活クラブたまごより受託し、生活クラブたまご飯能 GP センターの運営を担った。原卵入荷管理、洗卵パック詰めライン操作、製品卵の出荷管理を行った。

2025 年 7 月以降は㈱生活クラブたまご社員が常駐しなくなったため、卵の入荷・製造計画・出荷調整、各種検査、資材管理、取引先の一部受注業務、機械メーカーとの調整・部品発注・立ち合いなど、GP センター業務全般を担う体制へ移行した。

また、昨年に引き続き、飯能・入間・狭山のフードバンクと連携し、食の支援が必要な人への提供活動を継続した。

1) 業務体制

2026 年 2 月現在、製造管理者 1 名、リーダー 1 名、サブリーダー 3 名を配置し、機械の立ち上げから製造終了まで安全に業務が行える体制を整えた。

新たにメンテナンス担当者を設置し、注油などの基本的な保守作業を行った。

また、サブリーダー 1 名、機械立ち上げ担当者 2 名、供給担当者 2 名を育成し、業務を切り替える体制づくりを進めた。

【各役割の業務内容】

- 製造管理者

製造計画作成、データ確認、機械不具合の原因究明・軽微な調整、本社やメーカーとの調整・交渉、改善提案など

- リーダー

当日製造管理、翌日・翌週の製造内容確認と指示書準備、外部出荷分の製造量決定、翌週資材手配

- サブリーダー

サポーター業務に加え、パターン変更、卵質検査

- サポーター

GP 機立ち上げ、原卵入荷検品、ロット変更対応、卵種変更、エラー対応、外部出荷品計量・管理、資材搬入、前室・保管室整理、データ抽出・記録、勤務表確認、最終確認・戸締り

- メンテナンス担当

GP 機各所への注油

【GP 機立ち上げ・原卵入荷検品】

- 2 名が 1 時間の早出で対応し、電源投入、容器供給、印字準備、原卵検品、原卵供給を行い、9 時半の始業後すぐに製造を開始できる体制を整えた。

【製造】

- 1 月までは平飼い卵のパック製造日（土・月・水）は 9 名体制、それ以外は 8 名体制で対応した。
- 鶏のイン・アウトやイレギュラー製造の影響はあるものの、概ね以下の処理量で推移した。

土曜～水曜：1 日平均約 20 万卵 木曜：約 13 万卵

製造は 15 時～15 時半には終了できるようになった。

【清掃】

- 製造終了後、1～1.5 時間かけて機械・作業場の清掃を実施。
- 日々の清掃で手が回らない箇所は、週 1 回（木曜）に集中清掃を行った。

【製造管理】

- 原卵入荷検品、生活クラブ生協向けパック製造に加え、加工卵の製造・計量・出荷管理も実施した。
- 機械の不具合には早期に気づき、可能な範囲で調整し、必要に応じてメーカーへ問い合わせた。

2) 業務事故

2026 年 3 月 28 日（土）、洗卵工程で投入ラックを取り違い、中山農場の鶏卵の一部を誤った採卵日で印字した製品を出荷する事故が発生した。

（株）生活クラブたまごおよび生活クラブ連合会に多大な迷惑をかけ、狭山保健所への連絡や組合員への説明対応まで行っていたと事態となった。

その他の事故は 9 件で、主な内容は以下の通り

- 確認不足による納品書作成ミス
- オーダー見落とし
- ロット終了の押し間違い
- 印字不良に関連するヒヤリハットの複数発生

事故・ヒヤリハットは朝礼や運営会議で速やかに共有し、再発防止策を協議・実行した。

3) 業務研修

- 新人研修として「資材名称」研修を実施
- 運営会議後に「卵の色変更」「大破卵検査機エラー処理方法」研修を実施
- 運営会議後に「ラックカゴ車の取り扱い」研修を実施
- 運営会議後に「6 個パックから 10 個パック供給機の切替方法」研修を実施

4) 課題

- 各自のスキルアップと業務分担による事故未然防止体制の強化
- 多様性を認め合い、互いに気持ちよく働ける職場環境づくり
- たまご業務継続のための次世代人材の確保・育成

5) 受託費および人件費の実績

GP センター

		予算	決算	対予算
受託料	製造	27,761,680 円	27,871,571 円	100.4%
		18,632.00 時間	18,705.75 時間	100.4%
		1,490.0 円/時	1,490.0 円/時	100.0%
	期間特別	90,000 円	90,000 円	100.0%
	製造管理	3,250,000 円	3,308,000 円	101.8%
計		31,101,680 円	31,269,571 円	100.5%
人件費(時給計算分)		21,826,920 円	21,985,579 円	100.7%
		19,232 時間	19,326 時間	100.5%
平均単価		1134.9 円	1,137.6 円	100.2%
一時金		0 円	1,642,106 円	-
業務手当		745,200 円	971,150 円	130.3%
製造管理手当		2,520,000 円	2,575,000 円	102.2%
総人件費		25,092,120 円	27,173,835 円	108.3%

- 6) 自動販売機の管理業務（自動販売機の補充・販売管理・売上管理）本部で実施
自動販売機管理

	予算	決算	対予算
受託事業収入	60,000 円	59,475 円	99.1%
人件費(時給計算分)	27,720 円	19,485 円	70.3%
労働時間	24.00 時間	16.75 時間	69.8%
平均単価	1,155.0 円	1,163.3 円	100.7%

(7) たすけあい事業 …ワーカーズ・コレクティブたすけあいえがお

日高市・飯能市の地域包括支援センターや社会福祉協議会等からの紹介により、介護保険外の住民を対象としたたすけあい事業を実施した。

また結ま〜ると合併し、生活クラブ生協埼玉から、飯能市・日高市・狭山市・入間市における介護保険外の生活サポート事業およびエコロコーディネート事業を受託した。

「飯能市住民主体サービス事業補助金」を申請し、承認された。

2025 年度も生活クラブ総合サービスを通じて損害保険ジャパン(株)の「移動支援サービス専用自動車保険」に加入し、安心してサポートを行うことができた。

1) 受託事業

【生活クラブエコロ制度（ワーカーズ利用補助制度）】

生活クラブ生協埼玉より、生活クラブエコロ制度ワーカーズ・コレクティブくらしのサポート補助制度を受託し、エコロ会員からのサポート要請に対応した。

【組合員からのサポート依頼をコーディネート】

生活クラブ生協埼玉より、飯能支部・日高支部・狭山支部・入間支部の組合員からのサポート依頼をコーディネートする事業を受託した。内、狭山・入間は 8 件だった。

- 利用者 18 名
- サポート 20 件 81.25 時間

	生活支援		生活介助
	植木手入れ	掃除	付添
件数	16	3	1
時間	71.5	4.25	5.5

【生活クラブ共済「ハグくみ」ケアサービス事業】

生活クラブ生協埼玉より受託したが、2025 年度は依頼はなかった。

2) 生活サポート事業

- 利用者 21 名
- コーディネート 6 件 5.25 時間

- サポート 185 件 387.75 時間

内訳	生活支援				生活介助
	植木の手入れ	掃除	傾聴	食事作り	付添
件数	36	71	5	2	71
時間	88.75	89.25	10.75	4	195

3) 運営体制

生活クラブ生協くらぶルーム飯能「うちの茶の間」にて、毎月 1 回運営会議を開催し、メンバー間の情報共有に重点をおいて取り組んだ。

4) 研修

- 生活クラブ生協埼玉主催エコロ学習会

1 回 6 名が参加し、制度理解やサポートの基本姿勢について学んだ。

5) 課題

- サポート依頼の増加に対応するためのメンバー増員
- 安定した運営のための体制強化

6) 売上および人件費の実績

	予算	決算	対予算
受託事業収入	567,408 円	681,569 円	120.1%
飯能市住民主体サービス事業補助金、生活クラブ補助(金)	120,000 円	124,546 円	103.8%
自主事業収入	1,887,397 円	829,725 円	44.0%
計	2,574,805 円	1,635,840 円	63.5%
人件費(時給計算分)	2,255,690 円	1,521,376 円	67.4%
労働時間	1,814.00 時間	1,260.25 時間	69.5%
平均単価	1,243.5 円	1,207.2 円	97.1%
一時金	0 円	20,968 円	—
業務手当	64,800 円	37,464 円	57.8%
総人件費	2,320,490 円	1,579,808 円	68.1%

(8) 生活クラブ連合会、(株)生活クラブたまごとの業務調整

業務の調整を円滑に行う場として下記の会議をもった。

つどい・連合会業務調整会議

帳合、受注、ベル、ぴかりん、にこにこ

全 12 回

つどい・(株)生活クラブたまご定例打合せ

7 月より毎週木曜日

DC 委託業務物流調整会議(安全衛生委員会)

全 6 回

保育園実務協議会

全 5 回

2. 増資及び資金の借り入れその他の資金調達の状況

給与の翌月払いを実施しているため、収益が入金される前に人件費が必要となる。その

ため、メンバーには自身の1か月分の給与額を目安とした積立増資を呼びかけてきた。
資金の借り入れおよびその他の資金調達は行っていない。

3. 設備投資の状況

2025年度における設備投資はなかった。

4. 業務提携等重要事項の概要

2025年度における業務提携はなかった。

5. 直前3事業年度の財産及び損益の状況

項目	2023年度 (4月～10月)	2023年度 (11月～3月)	2024年度
資産合計	63,557,602	52,487,831	59,391,802
純資産合計	38,711,826	35,886,352	37,144,464
事業収益合計	103,142,206	74,639,857	182,075,125
当期純利益金額	714,923	△1,736,474	376,112

6. 教育の状況

当期に繰り越された教育繰越金 19,000円 全国大会研修費に充当

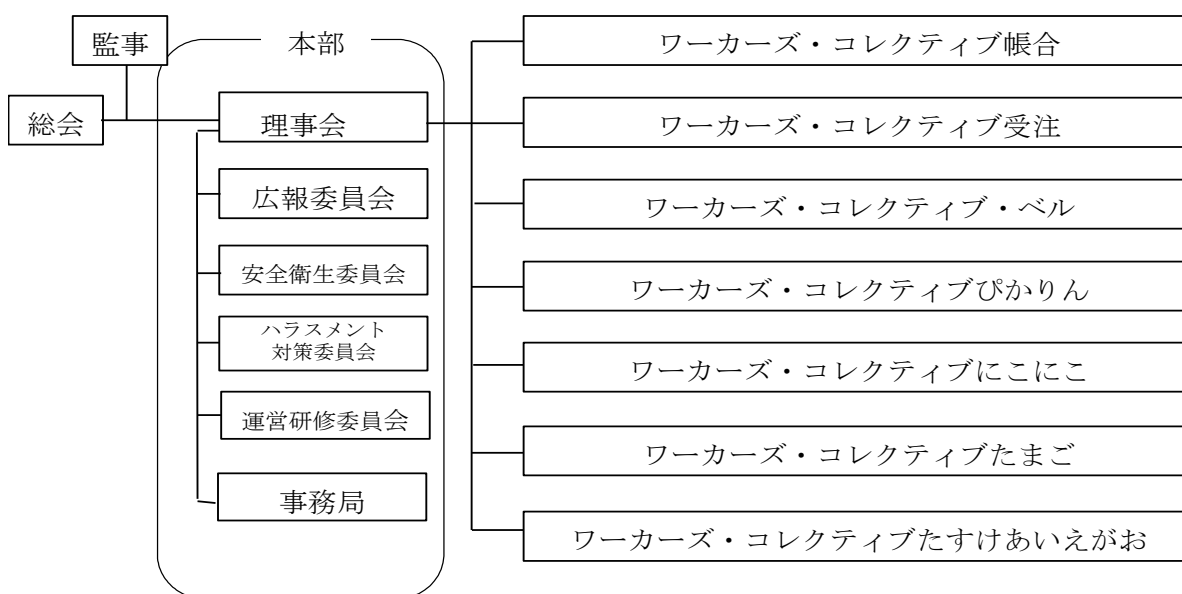
7. 対処すべき重要な課題・組合の現況に関する重要な事項

対処すべき重要な課題、人員の確保が重要な課題。組合の現況に関する重要な事項は特になかった。

Ⅱ 運営組織の状況に関する事項

ワーカーズ・コレクティブという働き方を大切にし、組合員一人ひとりが協同組合原則に基づいた主体的な働き方を常に意識しながら運営に参画することを目指した。それぞれが自らの役割を果たしつつ支え合い、ワーカーズ・コレクティブらしい働き場を実現するため、理事および組合員全員が各ワーカーズや委員会の運営に責任を持って関わるよう努めた。

1. 組織図



2. 総会の開催状況

第 20 回総会開催

2025 年 5 月 18 日（日）13:30～14:45

ウェスタ川越 多目的ホール AB

出席者数

組合員 136 名（本人出席 116 人、書面出席および委任状 20 人）

主な議案の決議

第 1 号議案 2024 年度事業報告、決算書及び剰余金処分案承認の件

議案につき説明、また監事より監査報告があった。議長がこれを議場に諮ったところ、賛成多数で原案通り承認した。

第 2 号議案 2025 年度事業計画決定

議案につき説明、議長がこれを議場に諮ったところ、賛成多数で原案通り承認した。

第 3 号議案 2025 年度収支予算、役員報酬、借入金残高の最高限度額決定

議案につき説明、議長がこれを議場に諮ったところ、賛成多数で原案通り承認した。

第 4 号議案 役員(理事・監事)選挙の件

議案につき説明、議長がこれを議場に諮ったところ、全員賛成で原案通り承認した。

3. 理事会の開催状況

理事会開催	2025年04月07日(月)	出席理事10名、監事1名
	2025年04月21日(月)	出席理事11名、監事1名
	2025年05月05日(月)	出席理事11名、監事1名
	2025年05月19日(月)	出席理事10名、監事1名
	2025年06月09日(月)	出席理事10名、監事1名
	2025年06月23日(月)	出席理事10名、監事1名
	2025年07月07日(月)	出席理事10名、監事1名
	2025年07月21日(月)	出席理事 8名、監事1名
	2025年08月04日(月)	出席理事 9名、監事1名
	2025年08月25日(月)	出席理事 9名、監事1名
	2025年09月08日(月)	出席理事 8名、監事1名
	2025年09月22日(月)	出席理事10名、監事1名
	2025年10月13日(月)	出席理事 9名、監事1名
	2025年10月27日(月)	出席理事10名、監事1名
	2025年11月10日(月)	出席理事 8名、監事1名
	2025年11月24日(月)	出席理事 9名、監事1名
	2025年12月08日(月)	出席理事10名、監事1名
	2025年12月22日(月)	出席理事 9名、監事1名
	2026年01月12日(月)	出席理事 7名、監事1名
	2026年01月26日(月)	出席理事 9名、監事1名
	2026年02月09日(月)	出席理事 9名、監事1名
	2026年02月23日(月)	出席理事 9名、監事1名
	2026年03月09日(月)	出席理事11名、監事1名
	2026年03月23日(月)	出席理事 9名、監事1名

主な議案の決議	代表理事の選任、組合員加入・雇用契約の承認、総会において決定した事業の執行細目の決定（ワーカーズにまたがる事項の決定、各ワーカーズ内部規約・賃金規程とその変更の承認）等
---------	--

4. ワーカーズ内会議・委員会等の開催状況

各ワーカーズ運営会議、広報委員会、安全衛生委員会、ハラスメント対策委員会、運営研修委員会において、組織運営および予算執行に関する決裁を行った。ベルでは、これらの内容を月例会議や職種別会議等で報告し、組織全体で情報共有を図った。

(1) 業務関連

月例・職種別会議	ベル	月 1 回 (全 12 回)
運営会議	帳合	月 1 回 (全 12 回)
	受注	月 1 回 (ZOOM を併用し、全 12 回)
	ベル	月 2 回 (全 24 回)
	ぴかりん	月 1 回 (全 12 回)
	にこにこ	月 1 回 (全 12 回)
	たまご	月 1 回 (全 12 回)
	えがお	月 1 回 (全 12 回)
本部事務局会議		月 1 回 (全 12 回)

(2) 広報委員会

担当理事 1 名と、各ワークスから選出された 1 名ずつ、計 8 名で広報委員会を構成し活動した。つどい組合員に向けた情報発信を目的に機関紙「すばる」を発行し、第 75 号については初めての試みとしてホームページのみでの掲載とした。

また、つどい内外に向けて、ホームページを活用した情報発信にも取り組んだ。

1) 開催状況

- ・ 定例会議 計 12 回 毎月第 1 週の月曜日 (9:30~12:30)

2) 機関紙「すばる」の製作・発行

「各研修の感想」「イベント」「組合員アンケート」などを記事として掲載し、組合員に向けた情報提供を行った。

- ・ 臨時号 (5/15 発行) 「柵後藤孵卵場国産鶏講習会」
- ・ 72号 (7/15 発行) 「役員のが今年度の抱負」「私のはまっていること」
「第 20 回総会報告・様子・感想」
- ・ 73号 (9/1 発行) 「理事のが今年度の抱負」「第 20 回総会後懇親会の様子・感想」
「各委員会紹介」
- ・ 74号 (12/9 発行) 「産業医島村先生の紹介」「D 研修まとめ」
「W. Co キッチン味噌さんインタビュー」
- ・ 75号 (3/2 発行) 「防災訓練の様子」「全国大会報告」「すばるアンケート」

※初めてホームページのみの掲載とした

3) ホームページの更新

- ・ 組合員ページ 定期的なパスワード変更
理事会・各委員会議事録、就業規則・賃金規程、飯能 DC のルール、送迎バス時刻表、「すばる」掲載
- ・ 外部向け 必要に応じて求人チラシを掲載

4) 課題

- ・ 外部に向けた情報発信について、方法や内容のさらなる検討が必要がある。

(3) 安全衛生委員会

理事長 1 名、各ワークーズから 1 名、衛生管理者（たまご兼務）、産業医 1 名の計 9 名で安全衛生委員会を構成し、活動した。

各ワークーズに「安全衛生ノート」を設置し、気づいた点を誰でも記入できるようにしたうえで、委員会で内容を共有・討議し、必要に応じて理事会や DC 安全衛生委託業務物流調整会議へ提案した。

1) 開催状況

- 定例会議 計 12 回 毎月第 2 週火曜日、午前中の 1～2 時間で開催
- 毎月の重点目標を設定し、各ワークーズの業務形態に合わせて注意喚起や掲示を行った。

2) 産業医契約

産業医は 9 月・12 月・3 月の計 3 回委員会に出席し、安全衛生に関する講義や職場巡視を通じて改善点の指導を行った。

また、随時 FAX で相談・助言を受け、その内容を毎月の討議に反映した。

3) 健康推進に関する取り組み

- メンタルヘルス対策

「こころの健康づくり計画」に基づき、管理者向けのメンタルヘルス研修を実施。
組合員向けセルフケア研修は未実施。

2025 年度の振り返りを行い、長期目標に沿った年次計画を策定した。

- 健康診断の実施

労働安全衛生法第 66 条に基づき、社会保険加入者および就業規則該当者 39 名に健康診断を実施。

自主検診者には受診料補助（上限 4,000 円）を行い、ポスターで周知した結果、5 名が自主的に結果を提出した。

- ストレスチェックの実施

つどいで働く全員を対象に実施し、産業医に相談できる体制を整えた。
結果は本人および産業医へ通知し、必要に応じて対応を促した。

- インフルエンザ予防接種補助

接種を推奨し、上限 3,000 円の補助を実施 (21 名接種)。

4) 災害に関する取り組み

- 『災害伝言ダイヤル』体験 8/31（日）、9/5（金）
- 飯能 DC 防災訓練参加 10/23（木）
AED 講習会へつどいより 7 名参加

5) 安全に関する取り組み

- フォークリフト安全講習（たまご以外の全勤務者対象）
11/14（土）～11/20（木）、12/10（水）、12/18（木）
- ラックカゴ車の取り扱い研修（たまご） 12/12（金）
- 安全衛生重点目標と危険源調査

各ワークーズで実施し、随時見直しを行い、注意が必要な事項は重点目標や危険源に追加した。

6) 研修受講状況

- メンタルヘルス・ラインケア・ハラスメント研修（管理者向け）
埼玉産業保健総合支援センター専門員による研修
1/13(火)開催、ハラスメント対策委員会と合同で13名参加

7) 課題

- 社会保険加入者および就業規則該当者以外の健康診断受診率の向上
- 健康診断結果の提出率向上。

(4) ハラスメント対策委員会

理事長および各ワークーズから選出された運営C基準以上のメンバー1名ずつ、計8名でハラスメント対策委員会を構成し相談への対応方法を共有した。また、組合員へはハラスメント防止に向け「ハラスメントのイメージ」の資料を配布した。

1) 開催状況

- 7月、9月、1月 計3回 1時間

2) 相談窓口

- ポスターで掲示してある専用メールアドレスにて、委員が対応

3) 研修受講状況

- 厚生労働省「裁判事例を基にしたパワハラ再現」動画を委員会で視聴（9/16）

4) 課題

- 相談員としての知識の向上
- ハラスメントについての全体研修の開催。

(5) 運営研修委員会

担当理事4名と各ワークーズから1名ずつ、計11名で運営研修委員会を構成し活動した。雇用時およびB研修・C研修・D研修の担当に分かれ、委員会とは別に担当者間で打ち合わせを行い、研修の進捗管理を行った。必要に応じてテキストや補足資料の改訂も実施した。

講師勉強会は「見学型」とし、実際の研修を見学したうえで、その場で質問できる時間を設けた。

1) 開催状況

- 定例会議 計12回 毎月第4週金曜日（13:30～16:30）

2) 雇用時

ワークーズ・コレクティブは働く人の協同組合として、出資・運営・労働が一体となった働き方であり、つどいは多様な人々が働く職場である。意見はまだ言えない段階でも、つどいの働き方を理解し、組合員として参画することを目的に実施した。

実施項目：「様々な人々と生きる（設立趣意） 地域・社会貢献」 「ワーカーズ・コレクティブとは」 「つどいの組織」 「個人の税金を知る」

3) B 研修

ワーカーズ・コレクティブでは、働く人が皆で話し合い、課題解決に向けて決定していく。「意見を出す場」と「決定する場」を理解し、会議・研修に参加し「知ろうとする姿勢」「質問できる力」を育て、また生活クラブ生協とワーカーズ・コレクティブの関係性を学ぶことを目的とした。

実施項目：「会議の進め方と議事録」「意思決定のあり方と権限委譲」

「協同組合 7 つの原則」「ワーカーズの組織」

「生活クラブの歴史と運動」「地域とのつながり」「つどいの会計」

運営 B 基準取得条件：「B 研修全項目の修了」「つどい累計労働時間 288 時間以上」

「運営 B 基準達成確認項目のクリア」

4) C 研修

会議や研修で意見を述べ、課題を見つけ解決策を提案するなど、つどいに主体的に関わることを目的として実施した。

運営 C 基準取得条件：「雇用時・B 研修講師を担えること」「試算表基礎研修 2 回(初回のみ)」

「会議運営を担う研修の受講」「WNJ 全国大会への参加」「つどい累計

労働時間 864 時間以上」「運営 C 基準達成確認項目のクリア」

※全国大会へ参加できなかった者については、2 回研修講師を担う事を代替条件とした。

- 「会議運営を担う」研修

各ワーカーズを混ぜたグループで実施

アイスブレイクで話しやすい雰囲気づくり

自ワーカーズの会議運営を振り返り、課題と改善策を共有

他ワーカーズの取り組みを知ること、自分たちの会議運営を見直す機会となった

2024 年度 B 研修修了者（2025 年度新規取得者除く）以上を必修とした

研修の具体的内容を機関紙等で共有することができなかった。

- 試算表基礎研修

月次の全体試算表を読み、経営状況を理解するための研修を 2 回実施

- 研修講師

運営 C 基準取得条件として、雇用時・B 研修の講師を担当(103 名で延べ 109 回担当)

- ワーカーズ・コレクティブ ネットワーク ジャパン (WNJ) 全国大会

WNJ 主催全国大会(東京開催)に 56 名(zoom 含む)が参加

テーマ「主人公は自分～共同で働き、ともに生きる～」

協同労働の価値と可能性を学び、他ワーカーズの取り組みや地域とのつながりを知る機会となった。

5) D 研修

全体を見渡し、公平な視点で課題を整理し、未来志向で解決に導く人材の育成を目的に実施した。

運営 D 基準取得条件：「つどい累計労働時間 1728 時間以上」「C 研修終了」「D 研修 2 テーマの受講」「D 基準達成確認項目のクリア」

- テーマ①「経営・組織、マネジメント」
 - コミュニケーションの重要性を学ぶ研修
 - つどい内の様々なワーカーズとの混合開催
 - じゃんけんゲームを通じた自己開示コミュニケーション
 - つどい全体の強み、自ワーカーズの強みを共有し、帰属意識が深まった
- テーマ②「損益計算書・貸借対照表（決算）」
 - 2025 年度の決算見込みから課題を抽出
 - 2026 年の予算時間や平均時給について議論

6) 講師勉強会

研修型で実施し、講師に見学可否を確認して表記
その場で質問できる時間を設定
テキストと補足資料を項目ごとに同一ファイルにまとめ、使いやすさを改善
必要に応じてテキスト・補足資料の改訂を実施

(6) 外部研修

つどいの組合員が外部の研修機会を活用し、協同組合の理念理解や地域制度の学習、協同労働に関する知識向上を図った。

- 2025 年国際協同組合年についてのビデオ学習 (5/5) 14 名参加
協同組合の歴史的意義や国際的な動向について理解を深めた。
- 飯能市地域包括支援センター「介護制度の活用法」 (9/5) 7 名参加
地域の介護制度や支援の仕組みについて学び、たすけあい事業への理解を深めた。
- 労働者協同組合連合会設立に向けた学習会 (3/20) 10 名参加
協同労働の法制度化までの経緯を学び、連合することの意義を考える機会となった。

5. 働きやすい職場づくり

子育て中の組合員が働き続けられるよう、飯能デリバリーセンター内事業所の共同設置による「生活クラブ太陽すくすく保育園」を活用し、土曜日・祝日・長期休みも含めて保育を利用しながら業務に就いている。保育園を利用する組合員に対しては、利用料の補助を行い、働きやすい環境づくりを支援した。

6. 自己目標シート

各組合員が目標を持って業務・組織運営・研修に取り組むため、自己目標シートを活用した。
ワーカーズごとに掲げた目標に対し、各自が年間目標を設定し、毎月「実現可能な目標」を立て、振り返りを行うことで、段階的なステップアップにつなげた。半期ごとにグループ討議で目標と成果の振り返りを行うワーカーズがある一方で、取り組みが不十分であったワーカーズもあり、今後はより効果的に活用できるよう、仕組みづくりの強化が必要である。

7. 組合員数及び出資口数の増減

出資金は、脱退による減少が2,937口。

	前年度末	増加	減少	本年度末
組合員数（名）	137	16	15	138
出資口数（口）	23,746	3,275	2,937	24,084
出資総額（円）	23,746,000	3,275,000	2,937,000	24,084,000

（出資一口の金額 1,000円）

8. 役員に関する事項

役員の氏名および担当

代表理事	武田 明美	理事長
代表理事	濱本 里美	専務理事
理事	五十嵐 里美	ワーカーズ・コレクティブ・ベル
理事	岩崎 智江	ワーカーズ・コレクティブ・ベル
理事	小林 佐知子	ワーカーズ・コレクティブたまご
理事	佐藤 裕美	ワーカーズ・コレクティブ帳合
理事	澤野 有希恵	ワーカーズ・コレクティブ受注
理事	丸山 由美子	ワーカーズ・コレクティブにこにこ
理事	森田 未歩子	ワーカーズ・コレクティブたすけあいえがお
理事	山崎 美智子	ワーカーズ・コレクティブぴかりん
監事	森井 久美子	
監事	渡部 孝之（組合員外）	

9. 職員の状況

専従職員は配置していない。現場作業人員については、その時々状況に応じて募集し、まずは雇用契約から始め、業務に慣れた段階でワーカーズ・コレクティブの働き方を説明し、組合員加入を勧めた。年度末現在16名が組合員加入し、雇用者15名となっている。

10. 事務局

年度中に新たに1名が増員され、事務局は4名体制となった。事務局員4名に加え、理事長・専務理事・副理事長（5月まで）が、以下のワーカーズ共通事務を担当した。

「各ワーカーズの勤務表入力」「給与計算・合算・支給」「会計処理」「雇用・加入・退職手続き」
「社会保険手続き」「税務申告」「各ワーカーズの決算書作成」「有給休暇計算」
「その他ワーカーズ間共通の事務全般」

日々の業務は事務局員同士で学び合い、互いに補いながら担当した。

事務局は原則として1日1名体制（新規事務局員勤務時を除く）を継続し、報告・連絡の不足を防ぐため、日々の業務内容や引継ぎ事項を日報に記載し、情報共有を徹底した。

理事長は作業の進捗管理、理事会関連業務や各ワーカーズ間の調整に努めた。

専務理事は会計・税務など経理面のサポートを担った。専務理事が担当していた年次作業の一部については、事務局員が担当できるようになってきている。

eLTAX、住民税納付、ストレスチェック、年末調整の新規マニュアルを作成し、既存のマニュアルについても随時点検・更新した。

	予算	決算	対予算
事務局人件費	2,309,110 円	2,232,997 円	96.7%
労働時間	1,997.50 時間	1,936.00 時間	96.9%
平均単価	1,156.0 円	1,153.4 円	99.8%
一時金	0 円	71,666 円	-
理事人件費	3,295,370 円	2,667,013 円	80.9%
労働時間	2,755.5 時間	2,267.00 時間	82.3%
平均単価	1,195.9 円	1,176.5 円	98.4%
一時金	0 円	102,586 円	-

【課題】

- 一部業務について担当者以外が十分に習得できておらず、業務が特定の人に偏っている。業務内容の共有と理解を進め、誰もが対応できる体制づくりが必要である。
- 年次作業は実施頻度が少ないため、手順や注意点を整理し、確実に実施できるようマニュアル整備を進める必要がある。

11. 施設の設置状況

組合が所有する施設はない。

12. 重要な子会社の状況

重要な子会社はない。

13. 組合の運営組織の状況に関する重要な事項

組合の運営組織に関して特に報告すべき重要事項はない。

14. 関係団体

(1) 法人会

税制改正等の最新情報を得るため、法人会主催の研修会に参加し、資料収集を行った。

(2) 所沢社会保険委員会

社会保険制度に関する情報収集のため、委員会に加入している。

Ⅲ 協同組合運動に関する事項

一般社団法人埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会に加入し、狭山エリア会議、情報文化部門会議、福祉部門会議へ理事から担当者を選出して参画した。またワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン(WNJ)の呼びかけに応じ、ワーカーズ・コレクティブによる労働者協同組合連合会の設立準備会および代表者会議に参画した。

1. 一般社団法人埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会

同種協同組合であるワーカーズ同士の連携を図るため、昨年度に引き続き連合会へ参画し、以下の会議に参加した。

(1) 総会

連合会理事として1名、代議員として3名が出席。

(2) 理事会

6月までは理事として、7月以降は監事として1名が参画。

定例会議	毎月1回	全12回	出席9回
サポートチーム(ZOOM併用)	7月、9月、10月、11月、2月		出席3回

(3) 狭山エリア会議

エリア内ワーカーズ間の情報共有と連携を目的に1名が参画。

定例会議(ZOOM併用)	毎月1回	全12回	出席12回
イベント「皮から作ろう!餃子パーティー」(1/31)を開催			2名参加

(4) 情報文化部門会議

つどいより1名が参画。部門からの連合会理事が決まらず、7月以降は活動が停滞し、会議にて情報文化部門の存続について検討し、次年度は前向きに活動を検討することとした。

定例会議(ZOOM併用)	6月、9月、12月、3月	全4回	出席4回
研修「元気に働くためのからだづくり」4/6			2名参加

(5) 福祉部門会議

つどいより1名が参画。福祉に関わるワーカーズ間で情報共有と課題整理を行い、事業の活性化に取り組んだ。

定例会議(ZOOM併用)	7月、9月、11月、1月、3月	全5回	出席2回
--------------	-----------------	-----	------

(6) その他

- 埼玉労働者協同組合意見交換会 5/16 開催 2名参加
- ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン全国大会
第1分科会「パートナーシップで生み出す価値」11/30 1名登壇

2. 労働者協同組合連合会設立準備会および代表者会議

労働者協同組合法施行から3年が経過する中、他の労働者協同組合と連携し、制度改善や政策提言を行うため、ワーカーズ・コレクティブによる連合会設立を目指した。つどいから1名が参画。

- 呼びかけ人会 8/21
- 労働者協同組合連合会設立代表者会議 10月、12月、1月、2月
- 労働者協同組合連合会設立準備会 10月より毎月開催5回
- 労働者協同組合連合会設立に向けた学習会 3/20

3. 生活クラブ生協運動グループ

(1) 生活クラブ生協狭山ブロック運動グループ協議会

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会狭山エリア会議、生活クラブ生協埼玉狭山ブロック、市民ネットワーク（日高）で構成される運動グループ

- 埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会狭山エリア主催の「皮から作ろう餃子パーティー」（1/31）でチラシ配布等の協力をいただいた。

(2) 生活クラブ生協埼玉 エッコロ委員会・コーディネートミーティング

えがおより1名参画した。

- 定例会議（ZOOM 併用） 毎月1回 全12回 出席7回

(3) NPO 法人コミュニティケアクラブ埼玉（CCS）

CCSの設立趣意は「参加型地域福祉」の実践と共に積極的に社会に対し提言することで、「誰もが安心して暮らすことができ、生きがいを持てる地域」の実現である。この設立趣意に賛同し、同じ協同の価値観を持つ団体や多くの市民と協働していくために、団体正会員として参加し情報共有した。

(4) NPO 法人大人の学校

大人の学校の活動目的は、地域で暮らす人々に対して、食・研修・市民力・生活文化・美と健康をテーマとする講座を開催し、受講する人々が、講座を通して問題への解決の糸口を探りながら、時代を超えて真実を学び深め、同時に、必要とされる情報を発信できるような、豊かで生き生きとした事業を行い、活力ある地域社会の実現に寄与することである。この目的と趣旨に賛同し、団体正会員として参加した。研修に参加することはできなかった。

4. 地域との連携

(1) 飯能地域協議会

生活クラブ生協埼玉飯能支部や、地域で活動する個人や団体と共に協力して地域の課題を共有し、活動した。

(2) 社会福祉法人日高市社会福祉協議会

今年度受入れの依頼はなかったが、今後も継続して受け入れを行う。

(3) 飯能市障害者就労支援センター

今年度受入れの依頼はなかったが、今後も継続して受け入れを行う。

(4) 東松山障害者就労支援センター

今年度受入れはなかったが、現在就労している組合員に関するフォローや相談に応じてもらった。

(5) 狭山市障害者就労支援センター

今年度受入れはなかったが、現在就労している組合員に関するフォローや相談に応じてもらった。

(6) たねと食とひと@フォーラム

「たね」を通してみた食と農の持続可能性についての啓発活動。「いのちをつなぐ」ことを伝え、毎日、口にする食事から、作る人・食べる人・そして育てる「たね」のそのものの大切さを見つめ直し、未来へとつなげる場をつくっている。この団体趣意に賛同し、賛助会員として参加する。